

令和7年度 神戸市市民福祉調査委員会
福祉政策会議（第2回） 議事要旨

日時 令和7年7月8日（火）午前10時00分～午後12時00分

場所 神戸市役所1号館8階 福祉局大会議室・オンライン

議題 今後10年間を見据えた地域福祉の理念

【主な意見】

- ・自治会、婦人会、ふれまちなどの既存団体が高齢化・縮小傾向にあり、担い手の固定化が進行するなかで、再生の可能性を模索して一緒に活動していく必要がある。既存団体と新しい社会的団体（社会企業、NPO など）との連携も文言に入れていくべき。
- ・「住民自治」を基盤に、新しいつながりや外部からの流入者とパワーを高め合っていく内容を文言として入れてもよい。
- ・「居場所」という言葉は、くつろぎの場や出会いの場といった限定的な意味を持ってしまうように思う。居場所には「地位と役割」が与えられる仕組みが必要。働き方を作る「場と機会」のような言葉にしてもいいのでは。
- ・「チャレンジ」という表現は抽象的なので、「仕事づくり」など具体的な社会参加の形で示せるとよい。
- ・神戸という都市だからこそ、共に創りあげるクリエイティビティを示せた方がよい。
- ・「制度に頼らない」という表現は、「制度を活用しながら住民主体で進める」などへ見直したほうがよい。
- ・「まちの小さな声」は少し分かりづらいので、「行政に届きにくい声」「生きづらさを抱える人々の声」など、より具体的で誤解の少ない表現へ修正しては。
- ・「マイノリティ」という言葉は、数ではなく「力の不均衡」を示す概念としての理解が必要。
- ・神戸市の基本構想では「生み出す」「寄り添う」「多様性」「絆」などのキーワードが強調されている。これらを使うと整合性も取れるのでは。
- ・今回の方向性として、創造性の話は出ると思う。「そうぞう（創造・想像）」という言葉をはらがなで表記しては。
- ・神戸の都市性（開放性、国際性）を理念に反映させ、他都市との差別化を図る。
- ・ウェルビーイングは関連するキーワードとして説明に入れてもいいのでは。
- ・子どもから高齢者までの本当の意味での生涯学習が、地域を支える人材育成に繋がる。子どもや若者が能動的に地域福祉活動に関与することも表現できればよい。
- ・「ソーシャル・インクルージョン」は、福祉政策の中心的理念として継続すべき。
- ・市民活動のきっかけとして、「楽しさ」「面白さ」が重要だが、持続性を考える必要がある。人々の力や可能性を「資産」として捉え、それを引き出す仕掛けが必要。